

画像検査を受けられる方へ



国立病院機構 渋川医療センター

住所 群馬県渋川市白井383

電話 0279-23-1010

当院放射線診断科では、経験豊富な画像診断専門医と診療放射線技師が、医療機器の性能を活かした質の高い安全な検査を施行し、よりの確な画像診断の提供を心がけております。

以下に、当院放射線診断科における画像診断の概要と各画像検査の注意点などをご説明いたしますので、検査当日までにご一読ください。

検査当日の手順

来院後、地域医療連携室の職員が放射線診断科（1階）へご案内→検査施行→受付にて会計（終了）というのがおおまかな流れです。



検査終了後、紹介医あての画像データと画像診断専門医による診断報告書をお渡しいたしますので、会計窓口か地域医療連携室前でお待ちいただきます（長くとも30分程度）。

CTとMRI検査において、紹介医が造影検査を希望している場合、検査前に画像診断医または看護師が造影剤に関する説明を行い、ご理解いただいた上で同意書に署名をいただきます。ただし問診の結果によっては、安全性を考慮し造影剤を使用しないこともありますのでご理解ください。

各画像検査の概要と留意すべき点

CT検査

CTとはコンピュータ断層撮影の意味でX線を用いた全身の断層撮影法です。短時間で全身の撮影が可能です。さらに撮影によって得られたデータから3D画像を作成することも可能です。また、検査前の水分の制限はありませんが、食事は軽めの方が良いと思います。検査開始から終了までの時間は、検査部位や方法にもよりますが長くとも10分～15分程度で終了いたします。

〔留意事項〕

- X線を照射するため妊娠の可能性のある方には施行できません。
- 1回のCT検査による放射線被ばく量は検査部位や造影剤使用の有無などで異なりますが、発がんなど身体への影響が問題となる量ではありません。当院では必要最低限の被ばく線量で検査を行っておりますが、ご質問等がございましたら放射線科スタッフにお気軽にお尋ねください。
- 腹部CT検査の場合、検査3日前以降の消化管造影検査（検診での胃のバリウム検査など）はお控えください。腸管内に残存する重金属であるバリウムにより病変が検出しづらくなる可能性があります。
- 糖尿病の治療薬（メルピン錠やグリコラン錠などのピグアナイド系薬）を内服している方で、主治医より造影CT検査が依頼された方は、検査前および検査後48時間は一時的に内服を中断していただきます。該当される方は主治医にご相談ください。

MRI 検査

MRI とは磁気共鳴画像のことで、強力な磁気を利用して身体を任意の断面で撮影する方法です。X 線を用いないため繰り返し検査を行っても人体への影響はありませんが、代わりに大きな磁石と電波を使用し身体の内部情報を画像化します。また撮影中はカンカン・ピーピーといった工事現場のような高音を伴いますので、検査の際にはヘッドフォン等（音楽なし）をお渡しいたします。

1 回の検査時間は撮影部位や種類により異なりますが、検査開始から終了まで 30 分～40 分程度です。MRCP の検査前は食事制限が必要です。（水やお茶は可。牛乳は不可）。

〔留意事項〕

MRI 検査室には強力な磁場（3.0 テラス）が発生しています。そのため、検査前に検査担当の診療放射線技師又は看護師が、問診による体内や衣類の金属類の有無、キャッシュカードや時計などの磁気の影響を受ける所持品の有無などをチェックします。

① 以下の方は MRI 検査を受けることができません（絶対禁忌）。

- ・心臓ペースメーカー、埋め込み型除細動器（ICD）、人工内耳、外傷、カラーコンタクトレンズ、インプラント、色素の強い刺青の方、金属片などが眼窩内にある方、妊娠初期（3カ月以内）の方、etc。

② 以下の方は MRI 検査を受けられない可能性があります（相対禁忌）。

- ・脳動脈瘤クリップを有している方（MRI 対応型クリップであることを確認する必要あり）
- ・血管内や胆管内のステントや下大動脈フィルターを挿入された方（2カ月以上経過していれば検査可能）

※マグネット脱着式義歯を装着されている方は、事前にかかりつけの歯科医師にご相談下さい。

③ 以下のものは金属（鉄分など）を含んでおり火傷の原因となりうることが知られています。

- ・皮膚パッチ（ニコチン、ニトログリセリン）、アイシャドウ、マスカラ、刺青など。

④ 以下は検査可能ですが磁場の乱れにより画像が歪み診断に影響を与える場合があります。

- ・体内に骨折術後のプレートなどの金属、歯科治療後の金属を有している方。

核医学検査

ごく少量の放射性同位元素（ラジオアイソトープ）を体内に投与し、放出されるガンマ線をシンチレーションカメラで撮影します。水分や食事制限はなく、どのような方にも検査を行えますが、撮影中の 15 分～30 分程度動かずに検査台上で横になっていただく必要があります。撮影頻度の高い骨シンチグラフィは注射後から撮像まで 3 時間以上あける必要がありますので、午前 9 時ころアイソトープを注射し、午後 1 時すぎより撮像開始となります。また、撮像の直前には必ずトイレを済ませてください。

実際の検査に際しての留意点は、核医学検査担当の診療放射線技師が説明いたします。

また、これ以外に臨床的に確認をする場合は、事前に放射線診断科医師にご確認ください。

ご不明な点があれば当院放射線科スタッフに遠慮なくお尋ねください。
検査当日はお気をつけてお越しください。

